

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	須原宿定勝寺納豆を甦らせる事業
事業主体 (連絡先)	古文書自習室・定勝寺納豆を甦らす会 (木曾郡大桑村須原門前下 1189-1 田中昭三)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業 ア特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	388,701 円 (うち支援金: 310,000 円)

事業内容

- 1 組立式室・ロジの考案・製造
- 2 定勝寺納豆の製造
 - ・製造説明会の開催
 - ・塩水漬け、天日干し、醸成作業
 - ・木曾ケーブルテレビの取材・放映
- 3 周知・PR 活動
 - ・活動報告・頒布会の開催
 - ・定勝寺境内での PR 活動
 - ・大桑村広報への掲載



【寺納豆(左)と定勝寺境内でのPR活動】

【目標・ねらい】

- ①寺納豆の製造法の確立・製造
- ②寺納豆への理解・関心の興起
- ③寺納豆の周知・PR
- ④地域の活性化への寄与

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①麹菌をふりかけたものとかけなかったもの(モルト)両方を製造し、天日干し日数に違いはあるが、どちらも寺納豆として仕上げることができた。
- ②コロナ禍の中、適当な人数の参加があり、ケーブルテレビ放映・広報の記載等により理解・関心が広まったと思われる。
- ③アンケートに答えてくれたり、試供品を使いレシピ開発に挑んだ方・提案してくれた方がいたりして確実に周知が進んだ。
- ④製造に必要な機材が充実し、製造説明会の複数回開催で製造方法をより多くの人に伝授できたりするようになり、多くの人が製造に関われる等地域活性化への下地ができた。

※自己評価 【 C 】

【理由】

- ・製造法の確立はほぼできた。
- ・新規入会者 2 名
- ・コロナ禍のため試食会等が開催できず、周知 PR もまだまだ不十分だった。
- ・観光客も 8 割減の 120 名程だった。
- ・地域活性化にはまだまだの状態だった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・製造法の確立に自信を持ち、より多くの方に周知・PR することが大事と捉え、
 - ①村のイベント参加
 - ②製造説明会の複数回開催
 - ③商工会関係者対象の試食会開催
 - ④一般者対象の試食会の開催
 - ⑤寺納豆を使った料理コンテストの開催
 - ⑥新規入会者の勧誘
 - ⑦発酵食品製造者との連携
 - ⑧シンポジウムの開催
 等々、できることはすべて取り組み、地域活性化へのステップアップを図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)